

## 昆虫⑥

## 春の妖精 ツマキチョウ

昆虫担当 中峯浩司

一年に一回，早春の短い間にだけ成虫が見られる蝶を「春の妖精（スプリング・エフェメラル）」と呼ぶことがあります。全国的には本州に生息するギフチョウなどが有名ですが，鹿児島を代表する春の妖精といえはこのツマキチョウです。

ツマキチョウ *Anthocaris scolymus* はシロチョウ科に属し，羽を広げたときの大きさは約 4.5mm。モンシロチョウよりは一回り小さくて前羽の先がとがり，オスには橙色の紋があります。国内では北海道から本州，四国，九州にかけて広く分布し，種子島・屋久島が南限です。国外では中国大陸から朝鮮半島にかけての東アジアに分布します。

幼虫の主な食草はアブラナ科の野生種で，ジャニンジン，タネツケバナ，イヌガラシ，スカシタゴボウなどの若い実を好みます。また，栽培種のダイコンやカブも利用されます。

生息地は食草の生える林の縁や山間の耕作地周辺，河原などの明るい場所で，羽を小刻みに動かしながら，地上 1～2 m を直線的に飛びます。これに対し，モンシロチョウはより人里に近い耕作地に多く，左右・上下にラ

鹿児島にはツマキチョウの他に，春の妖精と呼ばれる蝶が 3 種います。

## ○コツバメ（シジミチョウ科）

食樹となるアセビやツツジの生える照葉樹林の周辺に生息。県内では産地が限られ，3月上旬頃から見られます。

## ○スギタニルリシジミ（シジミチョウ科）

食樹となるキハダやミズキの生える県北部や大隅半島の古い照葉樹林に生息。3月下旬頃から見られます。

## ○ミヤマセセリ（セセリチョウ科）

県北部のコナラやクヌギの林に生息。3月中旬頃から見られます。



レンゲの花で蜜を吸うツマキチョウ

ンダムに飛ぶので，慣れれば遠くからでも見分けることができます。また，ツマキチョウのオスは決まったコースを飛び回る蝶道をつくることが知られています。

卵はモンシロチョウに似た紡錘型。産卵直後は淡い黄白色ですが，時間がたつと橙色になります。

ふ化した幼虫は燈黄色ですが，次第に緑色になり，さらに 2 齢以降は食草の若い果実そっくりの色彩になります。

5 月頃に蛹になり，形は前方と後方のとがった「く」の字型。通常は翌年の春に羽化しますが，飼育すると 2 回または 3 回冬を越すものがいて驚かされます。

成虫は 3 月中旬頃からは県内各地で見られるようになります。その年に初めて成虫が確認された日を初見日と呼びますが，初見日は年や場所によってまちまちです。今年（2007 年）は 3 月 2 日，鹿児島市紫原で目撃されており，暖冬のせいでしょうか，例年より早い初見日となっています。

ツマキチョウは被写体としても十分な魅力を持ちあわせていますので，最盛期の 3 月下旬～4 月上旬，近くの野山に出かけて，この蝶を探してみたいはいかがでしょうか。